

参 考

労働災害（休業４日以上・会員事業場）
－ １２次防（５年間）・１３次防（４年間）の比較 －

１３次防（平成３０年～令和３年までの４年間）における休業４日以上之死傷者は、１年平均で１４０.８人発生しており、１２次防（平成２５年～同２９年までの５年間）の１年平均１３８.８人に比べ２.０人増加している。

一方、死亡災害を見てみると、１３次防では、４年間で１５人が亡くなっており、１年平均では３.８人と、１２次防の１年平均４.０人に比べ０.２人減少している。

（単位：人）

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	12次防 平均	H30	R 1	R 2	R 3	13次防 平均
死 傷	151	158	141	117	127	138.8	125	156	145	137	140.8
死 亡	3	2	5	7	3	4.0	3	7	4	1	3.8

港湾労働安全強調期間（７月～９月）に発生した死亡災害（会員事業場）
－ １２次防（５年間）・１３次防（４年間）－

港湾労働安全強調期間（７月～９月）に発生した死亡災害は、下表のとおり１２次防期間中４人、１３次防期間中４人である。

発生日時		発生場所	性別	年齢	雇用形態	職種	事故の型	起因物	概 要
平成25年	8月13日 (火) 16:20頃	本船 デッキ	男	48歳	日雇	作業員	はさまれ・巻き込まれ	揚貨装置	冷凍貨物の揚荷のため、岸壁に仮置きしていた40フィート実入り22トンのコンテナを揚貨装置でデッキのツイストコーン上に積み戻す作業を4人が誘導ロープで行っていたところ、本船の揺れ及び途上のスタンションで引っ掛かりが外れた反動でコンテナが振れ、1人が鋼鉄製オイルタンクとの間にはさまれた。
	8月28日 (水) 8:40頃	舳	男	50歳	常用	玉掛者	はさまれ・巻き込まれ	揚貨装置	揚貨装置を用いて舳から本船へ鋼材コイルを積み込んでいたところ、キーコイル2個を地切りした際、突然沖側に振れ、舳の側壁との間に退避していた玉掛者がはさまれた。

平成 26 年	9月1日 (月) 15:15頃	本船 デッキ	男	42 歳	日雇	作業員	飛来・ 落下	揚貨装 置	原木の揚げ荷役をグラブバ ケットで束ねてつかみ、揚貨 装置運転者と2名で行ってい たところ、そのうちの一本が はみ出してハッチコーミング に引っ掛かり、外れたときに 原木が振れてハッチ口と壁と の間にいた被災者に当たっ た。
平成 29 年	9月15日 (金) 14:10頃	倉庫 土場	男	55 歳	常用	作業監 督	はさま れ・巻 き込ま れ	フォーク リフト	倉庫の土場において、フォ ークリフトによるコンテナ搬 送作業の誘導を行っていた被 災者が、待機中のトラックク レーンに構内へ進入するよう 伝えに行った後、荷降ろしの ために向きを変えようと旋回 していたフォークリフトの後 部と接触し、倒れたところを 当該リフトの後輪で轢かれ た。
平成 30 年	7月20日 (金) 8:40頃	船艙内	男	21 歳	常用	玉掛者	飛来・ 落下	鋼材	埠頭に接岸した内航船の船 倉で、岸壁に設置したクロー ラクレーン（吊上げ過重150 t）を用いて7本組に結束し たH形鋼（1本の長さ6m、重 量約84kg）を3束にまとめて 荷揚げ作業中、吊上げていた 鋼材が落下し、吊荷の下に いた被災者に当たった。
	8月15日 (水) 20:38頃	石炭船 積岸壁	男	60 歳	常用	監視員	おぼれ	石炭 運搬船	被災者が岸壁において、石炭 の運搬船接岸に伴う係留作業 中、ヒープラインを拾おうと した際に海中に転落した。
令和 元年	8月14日 (水) 12:10頃	ターミ ナル内	男	44 歳	常用	運転者	転倒	ストラ ドルキ ャリヤ ー	ストラドルキャリヤーによ りコンテナの運搬作業中、荷 を積載していない状態でスト ラドルキャリヤーが、右折し たところ、ストラドルキャリ ヤーごと左側に横転、運転席 にいた被災者が胸を強打し た。
令和 2 年	8月19日 (水) 9:00頃	着岸コン テナ船内	男	29 歳	常用	ラッシ ャー	墜落 ・転落	ステー ジ	コンテナ船内のコンテナを ガントリークレーンで地上に 降ろす作業中、コンテナ上に 残ったスタッカーを回収しよ うとしていた被災者がステー ジから5.2m下の本船デッキ に墜落した（推定）。

※ 上記の死亡災害については、協会ホームページの中の「災害データ検索 version II」から、さらに詳細な情報を得ることができます。